

第9学年＊組 国語科学習指導案

指導者 前嶋 洋子

1 単 元 「ことばの数式」でディスカッションしよう
教材名 「形（東京書籍）」

- 2 目 標
- 作品を読んで自分の考えをまとめたり、批評したりする学習に関心を持ち、意欲的に作品を読もうとする。
(関心・意欲・態度)
 - 場面の展開や登場人物の考え方の変化に着目し、読み取ったことから自分の考えを深めることができる。(読むこと)
 - 時代による言葉遣いの違いを理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 生徒の実態 (平成29年＊月＊日実施＊名)

実態調査では、＊名の生徒が、登場人物の言動が内容の展開にどのように関わっているかを考えることができた。しかし、登場人物の言動や内容の展開に込められた作品のテーマに着目することができた生徒は＊名であり、描写を限定したり、視覚的に示したりするなどの手立てが必要であることもわかった。また、自分の体験と比べながら意見交換をすることで、考えを深めることができるようにしたい。

	調査内容（本時の学習の基礎となる力）	正答者数
1	登場人物の言動が内容の展開にどのように関わっているかを考えることができる。	＊名
2	登場人物の言動や内容の展開に込められた作品のテーマに着目することができる。	＊名
3	話し合ったことから、知識や体験と関連付けて自分の考えを深めることができる。	＊名

4 指導観

中学校学習指導要領第3学年「C読むこと②言語活動例」には「ア物語や小説などを読んで批評すること。」とあり、批評などの活動を取り入れながら、文章の形式や内容について自分の考えを形成することが求められている。本単元における教材「形」のテーマは、「形」は時として「中身」以上の働きをすることがあり、人間は「形」に惑わされてしまうものである、ということである。しかし、これと反対の考えも出てくるであろうし、同じ考えでも文章にすると個々の表現は多様になるであろう。そこで、着目すべき言葉を焦点化し、考えの同異を分かりやすく視覚化する手立てとして、形>中身、形≦中身など「ことばの数式」として表すことにした。

5 研究テーマに迫るために

本学園の国語科の8～9年の学びの系統表では、「他者の考えを取り入れ、さらに自分の考えを広げ深めることができる」「互いの立場や意図を理解して、自分の考えを表現し合うことができる」ことを目標としている。これをふまえ、本単元では、「ことばの数式」を用いて作品のテーマについて話し合うだけではなく、自分たちの生活や体験と比べながら最も大切だと思う「ことばの数式」を導き出す話し合いを展開していきたい。

●焦点化	□視覚化	◇共有化
・センテンスカードを提示し、着目する記述をしぼる。 ・キーワードを提示し、着目する言葉をしぼる。	・「ことばの数式」のモデルを提示し、考えを分かりやすくする方法に気付かせる。 ・デジタル教科書を活用し、工夫して提示することで、着目すべき表現に気付かせる。	・自分の考えをグループ内で発表し、一人一人の考えをグループ内で共有する。 ・グループで検討したことを発表し合い、全体で考えを共有する。

- 6 指導計画（4時間）
- 第1次 全文を通読し、場面構成とあらすじを確認する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第2次 場面の展開や登場人物の考えの変化に着目し、読み取ったことから自分の考えを深める。・・・・・・ 2時間

	時	主な活動内容	観点別評価					
			関	話聞	読む	書く	伝統	評価の方法
第2次	1	・場面ごとに登場人物の考えの変化を読み取り「ことばの数式」で表す。			◎			登場人物の考えとその変化を捉えている。 ワークシート
	2	・作品のテーマやそれに対する自分の考えを「ことばの数式」で表す。 (本時)			◎			読み取ったことから自分の考えを深めている。 ワークシート

第3次 古典作品「松山新介の勇将中村新兵衛が事」を読み、小説「形」と比較する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

(1) 目標

(2) 準備・資料

(3) 展開

展開	児童・生徒の主な活動	予想される つまずき	UDの視点及び 指導上の留意点
課題把握 3 課題認識 5 自力解決 15 比較検討 10 全体検討 14 まとめ 3	1 学習課題を把握する。 作品のテーマをもとにして、自分たちが最も大切だと思う「ことばの数式」で表現し、考えを深めよう。 2 「ことばの数式」の扱い方について確認し、自分の考えやお互いの考えの同異を分かりやすくする方法であることを知る。 「形」 > 「中身」 「形」 < 「中身」 「形」 ≤ 「中身」 「形」 ≥ 「中身」 「形」 ≠ 「中身」 「形」 = 「中身」 「形」 ÷ 「中身」 「形」 ≡ 「中身」 「形」 ∞ 「中身」 「形」 // 「中身」 「形」 ∩ 「中身」 「形」 ⊂ 「中身」 3 「ことばの数式」を用いて、作品のテーマと自分の考えを表現する。 (1) 前時のプリントから、作品のテーマとその根拠となる描写を見直す。 (2) 作品のテーマをもとにして、最も大切だと思う自分の考えを、これまでの体験などを踏まえながらまとめる。 (3) 「ことばの数式」を用いて表現する。 4 完成した「ことばの数式」をグループで検討し合う。 (1) 1人ずつ、自分が考えた「ことばの数式」を見せながら説明する。 (2) 話し合った内容を電子黒板に写し、全体発表の準備をする。 5 グループで検討したことを全体に発表する。 (1) グループ代表者が「ことばの数式」を用いた作品のテーマや自分たちの考えについて説明する。 (2) 他のグループからの質問や意見に答える。 6 本時の学習を振り返る。 作品のテーマは形>中身だが、最も大切だと思うのは、『 』である。	・「ことばの数式」に使う記号などを理解すること。 ・テーマが読み取れる表現に着目すること。 ・個々の考えに違いがあることで、意見交換が豊かになり、自分の考えが広がること。	□電子黒板を活用し、前時までの学習を振り返らせるとともに、「ことばの数式」とは何かについて確認する。 □「ことばの数式」モデルを活用し、様々な表現の仕方があることを確認する。 ・「形」「中身」だけでなく、別の言葉を利用してもよいことを助言する。 ●センテンスカードやキーワードカードを示したことで、テーマが読み取れる表現に着目させ、課題の焦点化を図る。 ◇自分の考えをグループ内で発表し、一人一人の考えを共有する。 ※他の考えをよく聞いている。 ◇グループで検討したことを発表し合い、全体で考えを共有する。 ・作品のテーマに対する考えに違いがあることで、それぞれの考えがさらに深まることを確認する。 ◎読み取ったことから、自分の考えをまとめている。(発表・ワークシート)

学習の流れ

課題把握 ●
課題認識
自力解決
比較検討
全体検討
まとめ

講

形
菊池 寛

班の考え

ま

作品のテーマは形・中身だが、最も大切だと思うのは『 』である。

キーワードカード

形・中身・実力・外見・心・現実

センテンスカード

作品のテーマをもとにして、自分たちが最も大切だと思う「ことばの数式」を導き出そう。

デジタル教科書

『場面の展開や登場人物の考えの変化』
『さまざまな「ことばの数式」の扱い方』